

アフガニスタン ②

Noriko Dethlefs
(紀子・デスレフツ)さん

お元気ですか？先週末（4月28日・29日）はこの国の祝日でした。1989年のロシア軍撤退と、それまで続いたロシアによる支配の終わりを祝う日です。

こちらの生活にもだいぶ慣れてきました。朝はたいいていスピーカーから大音響でお祈りの合図（4時半頃）が寝室まで聞こえてくるので起こされます。それでも起きないと今度は中庭の雄鶏達がこれに応え、夢中になって鬨の声をあげて起こしてくれます。早朝は涼しく静かで、一日のうちでも一番気持ちのよい時間です。この時間に用事を片付けるのは大好きです。ただし電気が来ていればの話です。二槽式の洗濯機を買いました。40年前に日本で母が使っていたような洗濯機です。自動式ではないけれど、でも手洗いよりはずっと楽です。洗濯物はすぐに乾きます。でも外は埃が多くて直射日光もきつから家の中に干します。夕方涼しくて気持ちが良いけれど、午後9時にチームの無線機で全員の在宅と無事確認の連絡が来るころにはもう眠くなってしまいます。

ロジャー（夫）はペロン（貫頭型のシャツ）にトンボン（ゆったりとしたズボン）のほうがずっと涼しくて、床に座るのも楽だと言うけれど、私にはまだどうしてもパジャマにしが見えません。若い人たちはジーンズが大好きです。女の人もブルカの下にジーンズをはいています。ジーンズはバザールで売っているけれど新品ではありません。この間ジーンズを買いたくて友達と一緒に地元のパザールに探しに行きました。地面に山積みにしてある中からひっくり返して探しては腰に当ててサイズを見ているうちに、はっと気がついたら好奇心丸出しの男の人たちが大勢隙間もないほど私を取り囲んでいました。急いで一本買って逃げるように帰りました。ところが家ではいてみたら私には大きすぎて、結局もう一度バザー



「世界の民族衣装をたずねて」市田ひろみ著より

ルに買いに行く羽目になりました。上に着るものが長袖でしかも腰を覆うほど長くなければならず、おまけにチャドル（チャドリとも言う）で頭もすっぽり覆います。競技場に運動をしに行くときにも、まさにこのスタイルで行きます。今では女性も競技場に入れてもらえるけれど、ドイツ人の友達と私以外に女の人なんてジョギングしているのはおろか、歩いているのさえ見たことがありません。また女性も入学できるし、

理屈では車の運転もできるはずですが、でもまだ一人として女の人が運転するのを見かけたことはありません。

つい先日、オフィスのピクニックがありましたスタッフ全員とその家族が参加したのですが現地の女性たちは夫や家族からの許可が得られず、結局、奥さん達を家に残して男性スタッフ達が子連れで参加。女性たちは来年参加できるかもしれない、そうなればいいのに、と言っていました。実現したとしても座る場所は男性とは分けられます。7台の車（全部で50人くらい乗せて！）を連ねて町を出て、30キロ離れた山の近く、ラクダやロバや山羊が間近に見えるようなところでカバブとナンでバーベキューをしました。道は信じられないくらい埃っぽかったけれど、景色は素晴らしい！の一語に尽きました。

都会はどんどん近代化されていて、新しく出来るレストランの中には男女が一緒に食事の出来るコーナーを設けているところもあります。郵便局もやっと出来て、私も郵便を受け取る楽しみが出来ました。でも町中にポストや郵便受けというものは全くないので、郵便物は出すにも受け取るにも郵便局に向きます。読み書きのできない人が過半数を占めているのですが、プロの代筆屋が道端に店を構えていて、そういう人たちに読んだり書いたりしてあげています。そんなわけだから携帯電話がものすごい勢いで普及しているのもうなずけます。国内の電話料金はいたってまともです。でも国際電話は高いです。若者は電話というのは携帯のことだと思っています。他の形の電話は見たことがないのです。

火曜日にはチームの会合、金曜日には志を同じくする外国人（礼拝仲間）との集まりがあり、その他にもチームメンバーのみんなと協力しあって共に学び、祈る毎日

プライベートは無きに等しいのです。本当にメンバーはみんなにとっては大きなファミリーのようなもの。ほとんどの人にとって英語は第二外国語、そしてみなそれぞれに个性的で意志強固な人ばかり（そうでもなければここではやってゆけないでしょう）なので、面白いし、いろいろなことを学ばせてもらっています。

国際交流協会便り

シェフィールド市訪問川崎市民交流団報告

今年の市民交流団は、10月25日から31日までの7日間、友好都市提携15周年を迎えたイギリスのシェフィールド市などを訪問した。高島団長をはじめ全員で21名。この時期のイギリスにはめずらしく温かい気候と晴天に恵まれ、イギリスの旅を満喫し全員元気で帰国した。

〔シェフィールド市訪問〕

シェフィールドは、七つの丘の上にてきた街で、坂が多いというのが第一印象であった。表敬訪問は、1800年代ビクトリア時代に造られたタウンホール。2階の広大なホールに案内されると、入口でデービソン市長が一人一人握手で迎えてくれた。コーヒーをいただき、並べられた椅子に着く。出席者は市長さんと国際交流協会のスミス氏ほか約20名。事前の情報では市民や留学生も参加すると聞いていたので少し寂しい感じがしたが、多い少ないの問題ではない。話すうちに一人一人の歓迎の気持ちが熱く伝わってきた。

市長さんからは、遠く日本から来てくれたことに感謝する言葉をいただいたが、こちらから川崎へ行くことは

編集後記

「もっと知ろう！アジア！」今回は広い中国の中の暮らし、文化、生活の違いに焦点を当てて、取材をしようとしたのですが、中国は今急激な近代化の波によって変化しており、地域の特徴が少なくなっていることも知りました。日本でも古い習慣は影が薄くなっていますが、中国でも長い間、培われてきた伝統が姿を消しつつあることを知りました。今回の取材を通して新しい中国の様子を知ることができ、改めてその発展ぶりを認識できたことは良かったと思いました。

福井すみ代

今のところは私は臨時教師としてチームの子どもたちの勉強を見ています。英語を履修する学生たちは私が教えられるようになるまで我慢して待っていてくれます。私も早く教師がしたい。特に女学生に教えるのが楽しみです。（原文：英語 訳：泉晶子さん）

なかなかできないと、交流のもどかしさを話された。組織と予算が整った川崎とボランティア活動を基盤とするシェフィールドでは、おのずと交流に対する姿勢が違う。こう実感できたのも訪問の成果の一つであると思う。その他、現地の人たちへの着物の着付けや日本の歌の披露などは大変好評で、相互の友好親善を一層深めることができた。

〔その他の訪問〕

その他、広大な丘陵地帯コッウォルズに点在する美しい村々、ローマ時代の浴場跡で有名なバース、いくつも巨大な石柱が点在するストーンヘンジを訪ねた。また、ロンドンでは、バッキンガム宮殿、ウエストミンスター寺院、大英博物館、ウインザー城を見学した。

〔訪問を振り返って〕

この旅行が楽しく充実したものとなったのは、何よりも参加された皆さんの協力によるところが大きい。訪問後のアンケートに「皆様に会えたことが良かった」との意見があった。国際交流は人との交流である。今回の様な訪問も参加者同士の交流がうまくいかなければ、国際交流は意味をなさない。改めて交流の原点を思った。また、CLA Rロンドン事務所に赴任していた川崎市職員岩崎風渡氏には大変お世話になり感謝申し上げたい。（猪瀬記）

財)川崎市国際交流協会

〒211-0033 川崎市中原区木月祇園町2番2号
川崎市国際交流センター内
TEL 044-435-7000 FAX 044-435-7010
http://www.bremen.or.jp/kian/

